

＜対策のポイント＞

福島イノベーション・コースト構想に基づき、新たな司令塔のもとICTなどを活用した農林水産分野の先端技術の開発を行うとともに、状況変化等に起因して新たに現場が直面している課題の解消に資する現地実証や社会実装に向けた取組を推進します。

＜政策目標＞

先端技術を用いた被災地の農林水産業の復興・創生

＜事業の内容＞

1. 先端技術の開発

被災地の農林水産業の復興を強力に推進するため、ICTなどを活用した農林水産分野の先端技術を開発します。

2. 先端技術の現地実証

特定復興再生拠点区域をはじめとした被災地域内に設けた現地実証地区において、新たな状況変化に起因する技術的課題を解決するための先端技術の現地実証を実施します。

3. 研究成果の社会実装促進

実用化された技術体系の速やかな社会実装を図るため、被災地域内に設けた社会実装拠点を核として、得られた研究成果の情報発信、技術研修、現場指導等を行います。

＜事業の流れ＞

国

→ 定額

福島国際研究教育機構

→ 委託

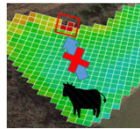
民間団体等

＜事業イメージ＞

○先端技術の開発

＜技術例＞

- 携帯電波の届かない地域でも利用できる、放射性物質高濃度エリアへの牛の接近防止や牧草等摂食制限を可能とするシステムの開発



○先端技術の現地実証

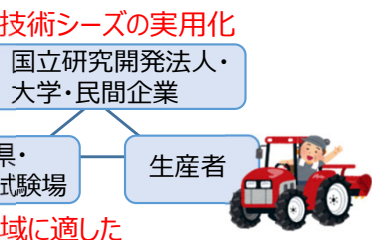
＜現地実証のテーマ例＞

- 特定復興再生拠点区域の円滑な営農再開に向けた地力回復、放射性物質対策等の技術実証
- 本格的な操業の再開に向けた漁場予測情報配信等のスマート水産業システム開発と経営モデルの実証



技術シーズの実用化

国立研究開発法人・大学・民間企業



生産者

福島県・公設試験場

被災地域に適した技術の調整・改善

現地実証の実施

○研究成果の社会実装促進

＜これまでの実証成果の事例＞

- ナシのジョイントV字樹形による早期成園化・省力化技術

※ジョイント栽培技術は神奈川県農業技術センターが開発



- 肉用牛のエコー画像と枝肉画像のAI解析により生育途中で肉質を推定する技術



先端技術を用いた被災地の農林水産業の復興・創生を実現！